

# さるしま junior

第6号（夏一その1）

令和3年6月1日発行

園長 小菅 哲也

## 今日からみんなが野菜のお父さん、お母さんです！



5月14日（金）晴れ。夏のような暑さの中、子どもたち一人ひとりにミニトマトとピーマン、キュウリの苗を手渡しました。神妙な表情で、両手で慎重にポット苗を受け取る子どもたち。今日からは、野菜のお父さん・お母さんです。

3か所の専用のプランターに分かれて、苗をポットから取り出し、魔法のベッドに寝かせ、布団をかけます。そして、たっぷりと水をやります。あまりの暑さと昨日までとは違う

ベッドに、野菜たちも驚いたようでした。でも、かわいいじょうろからもらった水は、とってもおいしかったに違いありません。

諏訪幼稚園では、栽培活動がさかんです。開園当時から、たくさんの花や野菜を育ててきました。一昨年までは、園児数が多く、スペースや器材も限られていたため、みんなで力を合わせて花や野菜を育てました。昨年は、緊急事態宣言による休園のため、職員が苗を植えました。今年度は、プランターにゆとりがあり、



植付けから収穫、後片付けまで、すべて園児一人ひとりに託されます。「69年間の中で最も恵まれた栽培活動」と言っても過言ではありません。



「月曜日まで元気でね」「早く大きくなってね」と、自分の苗に声をかけて家路につく子どもたち。またひとつ、「筋書きのないドラマ」が始まりました。

## 小学校でも続く栽培活動

小学校でも、生活科や理科の時間を中心に栽培活動が行われます。1年生はアサガオ、2年生は夏野菜、3年生はヒマワリ、4年生はヘチマやゴーヤ、5年生はインゲンマメ、6年生はジャガイモを育てます。5年生では、「総合的な学習の時間」を使って、米づくりに挑戦している学校もあります。5月半ばからは、登校するやいなや、オリジナルじょうろを持って自分のプランターに向かう姿や、休み時間になると学年や学級の花壇に集合する姿がたくさん



見られるようになります。諏訪小学校の校庭の片隅でも、黄色い帽子をかぶった先輩たちが、アサガオのプランターに群がっている姿をしばしば見かけます。



「花や野菜が生長する喜び」「植物の生命の不思議」「農家の人の苦勞」「収穫の喜び」「今までとはひと味違う野菜のおいしさ」…これらは、実際に野菜を育ててみて初めて気がつくことです。さらに、子どもたちは、野菜の気持ちと自分の気持ちとが近づいていくことで、「思いやり」や「責任感」、「生命の大切さ」を学んでいきます。



## 栽培は（も）、順調にいかないからおもしろい

野菜の苗には、人と同じように「個性」があります。プランターに植え代えた2時間後、元気がなくなってしまった苗が1本ありました。すっかりしおれてしまった苗を見て、職員も心配しました。翌朝、ドキドキしながら幼稚園に来てみると、茎も葉もしゃんとしているではありませんか！昨日は、新しいベッドに慣れようとがんばり過ぎて、苗も疲れていたのかもしれないね。



5月16日（日）の夜から翌日の朝にかけて、野菜たちは、思わぬ暴風雨に見舞われました。茎が少し折れてしまったり、葉が1枚飛ばされてしまったりした苗もありました。そんな中、からだを前後左右に揺すりながら、向かってくる風を上手によけた運動神経抜群の苗がありました。キュウリの苗の中には、風に飛ばされまいと、伸び始めたばかりのツルをあらん限り伸ばして支柱にしがみついた苗もありました。

今年の夏は、梅雨が長そうです。それだけに、暴風雨や日照不足が心配です。茎が伸びて葉が茂ってくると虫たちも食べ物や隠れ場所を探して苗に集まってきます。花が咲いたり実がなったりするころには、鳥たちも餌を求めてやってきます。



花や野菜を育てているといろいろなことがあります。「順調にいかないのが当たり前」です。だからこそ、おもしろいし、生長した時の



喜びもひとしおです。ほんとうに子育てとよく似ています。これから訪れるであろう危機を、子どもたちはどう乗り越えていくのでしょうか。栽培の様子を、ぜひご家庭でも話題にしてみてください。

追伸 5月24日（月）は、サツマイモの苗を植えました。

ジャガイモはあと1か月くらいで収穫です！

